

夏休み！ 読んでみたいこの一冊

③ 高学年から

図書展示

平成 29 年 7 月 14 日(金)～8 月 31 日(木)

神戸市立中央図書館



ポッパーさんとペンギン・ファミリー

R・アトウォーター、F・アトウォーター著

R・ローソン絵 上田一生訳 文溪堂

1996.8

PV:6000056897 Y アト

ペンキ屋のポッパーさんの夢は、南極や北極に行くことでした。ポッパーさんは、いつも南極の本を読んでいたので、南極のことはとてもよく知っていました。ある日ポッパーさんのもとに、南極探検家からペンギンが送られてきました。ポッパーさんは大喜びで世話を始めるのですが…。



おまけ鳥

飯田朋子作 長野ともこ絵

新日本出版社 2012.8

PV:7200269008 Y イイ

ぼくの家は「来る来る亭」というラーメン屋。あすなる学園を卒業したおねいちゃんも手伝っている。そんなお店に、特別支援学校に通っている芳君がやってくるようになった。おねいちゃんと芳君のために、お父さんが先生になってぎょうざ作りの講習が始まった。そこに、ぼくも友達のみつるも巻きこまれていく。



糸子の体重計

いとうみく作 佐藤真紀子絵

童心社 2012.4

PV:7200243610 Y イト

5年生の糸子は食べるのが大好き。なのに、夏休みにダイエットにはげむことになった。ちょっと太めの友達をかばって、自分の体重を平均体重にまで下げられるかどうか、クラスメイトの良子とかけをしたのです。友達のためにがんばる糸子の姿は、いつもクールに決めている良子の心にさざ波を立てます。



ダストビン・ベイビー

ジャクリーン・ウィルソン作 小竹由美子

訳 ニック・シャラット絵 偕成社 2004.8

PV:7000244079 Y ウィ

エイプリルは 14歳の女の子。生まれてすぐに、ごみ箱(英語でダストビン)に入れられているところを発見され、いろいろな家やしせつで育ててきました。それでも生みのお母さんに会いたくて、誕生日の朝、今の保護者マリオンの家を飛び出します。過去をたどるエイプリルが見つけたものは…。



名前をうばわれた少女

ジョアン・M・ウルフ作 日当陽子訳

朝倉めぐみ絵 フレーベル館 2012.8

PV:7200271520 Y ウル

第二次世界大戦中ナチスドイツは、支配していたチェコスロバキアのある村をおそいました。大人たちを殺したり強制収容所へ送る一方で、幼い子供のうちドイツ人によく似た顔をしている子を、ドイツ人の養子にしました。この本は、ナチスに名前をうばわれ、取りもどした一人の少女のお話です。



空を飛んだ男の子のはなし

サリー・ガードナー作 三辺律子訳

小峰書店 2013.8

PV:7200341568 Y ガー

トーマスの誕生日に、妖精がやってきて、願いごととは何かと聞きました。トーマスの一番の願いは、いつもふきげんなお父さんが楽しくなることでしたが、自分のことでないとだめと言われ、空を飛ぶことと願いました。でも、大人たち、とくにお父さんは、トーマスが空を飛ぶことを認めようとしません。



つづきの図書館

柏葉幸子作 山本容子絵

講談社 2010.1

PV:7200124091 Y カシ

地元図書館で司書として働き始めた桃さん。図書館の中で桃さんに声をかけてきたのは、本から飛び出てきたお話の中の登場人物たち。かれらは、自分たちが登場する本を借りた子供たちのその後を知りたい、というのです。おどろいた桃さんでしたが、いっしょに探してあげることにしました。

クローディアの秘密



クローディアの秘密(新版)

E.L.カニグズバーグ作 松永ふみ子訳
岩波書店 2000.6 (岩波少年文庫)
PV:6000280201 Y カニ

クローディアは、計画的に家出をしました。ヴァイオリンケースにパジャマや下着など必要なものを入れ、弟といっしょに、美術館にかくれようというのです。昼は見学の小学生にまぎれこみ、夜は展示してあるベッドでねむりました。そして二人は、あるちょうこくにに関するなぞに取り組めます。



緑の霧

キャサリン・ヴァン・クリーヴ作
三辺律子訳 ほるぷ出版 2017.3
PV:7200525811 Y クリ

ポリーの家は「魔法の力」に守られた不思議な農園です。チョコレートの味がする野菜、決してだれもおぼれない湖、決まった時間に降る雨。ところが緑色の霧が湖をおおいはじめると、雨は降らなくなり、作物はかれはじめます。「魔法の力」を信じるポリーは、農園を守るために立ち上がります。



テッドがおばあちゃんを見つけた夜

ペグ・ケレット作 吉上恭太訳
スカイエマ絵 徳間書店 2011.5
PV:7200191127 Y ケレ

町で銀行強盗事件が起き、犯人は逃走中。その夜、アルツハイマー病のおばあちゃんといっしょに留守番をしていたテッドは、ニュースで言っていたのとそっくりな姿の男と出会い、トラックに乗せられてしまいます。男は犯人なのか？！危機を乗り越えたテッドに、ある気持ちの変化がおとずれます。



幽霊船から来た少年

ブライアン・ジェイクス著 酒井洋子訳
早川書房 2002.12
PV:7000113143 Y ジェ

約400年前、「フライング・ダッチマン号」が沈没しました。この船はその後幽霊船となり、大海原をただよっているのだという伝説があります。助かったのは、ネプという少年とかれに寄りそう黒いラブラドル犬。二人は年をとることなく、かれらを必要とする場所に現れるのです。

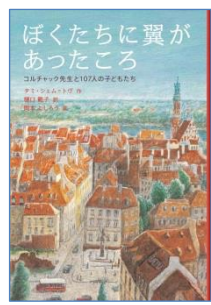
地下の洞穴の冒険



地下の洞穴の冒険

リチャード・チャーチ作 大塚勇三訳
岩波書店 1996.5 (岩波少年文庫)
PV:6000033324 Y チャ

夏休みも残りわずかとなったある日、田舎に来ていたジョンは、ワラビのしげみの中に、穴を発見しました。それは洞穴の入口でした。仲間たちをさそって、調べることにしたジョン。食糧、ロープ、電気灯、必要な物を準備して出かけたが、予想をこえて洞穴は大きく広がっているのです。



ぼくたちに翼があったころ

タミ・シムトヴ作 樋口範子訳
岡本よしろう画 福音館書店 2015.9
PV:7200455991 Y トヴ

暮らしが貧しくぬすみを得意としていた少年ヤネクは、姉のすすめでコルチャック先生の孤児院に入ることになりました。そこは、子供が一人の人間として尊重され、愛情をもって育てられる「孤児たちの家」でした。第二次世界大戦目前のポーランドに、実際にあった理想の家をヤネクの体験として語っています。

風につけてきたメアリー・ポピンズ



風につけてきたメアリー・ポピンズ

(新版) P.L.トラヴァース作 林容吉訳
岩波書店 2000.7 (岩波少年文庫)
PV:7000023195 Y トラ

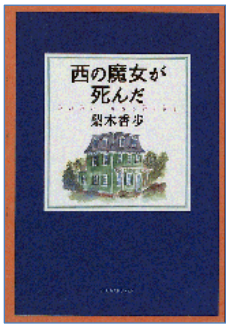
メアリー・ポピンズは、桜町通りのバンクス家に、新しくやって来た子供の世話係です。メアリー・ポピンズが来た最初の夜、子供たちは、「ねるまえに一さじ」と書いたびんに入った薬を飲まされることになります。マイケルの一さじはストロベリーアイスの味、ジェインの一さじはライム・ジュースの味でした。



有松の庄九郎

中川なをみ作 こしたミカ絵
新日本出版社 2012.11
PV:7200292799 Y ナカ

江戸時代のはじめのころ、尾張の国(今の愛知県)のある村では、貧しさに苦しんでいました。そこで、仲間をつのって新しい土地に移り住むことにしました。リーダーとなったのは竹田庄九郎。けれども、貧しさは変わりません。そこで苦勞の末、「有松絞」と呼ばれる染め物を生み出したのです。



西の魔女が死んだ

梨木香歩著
小学館 1996.4

PV:6000024083 Y ナン

学校でいじめにあい不登校になった中学生のまいは、「西の魔女」と呼んでいる祖母の家でしばらく暮らすことになりました。祖母はイギリス人で、自然に囲まれた家に一人で暮らしています。まいは祖母のもとで、「魔女修行」を始めることになります。修行とは、何でも自分で決めるということでした。



ぼくがバイオリンを弾く理由(わけ)

西村すぐり作 スカイエマ絵
ポプラ社 2008.10

PV:7200062629 Y ニシ

コンクールに落選した11歳のカイトは、自分のバイオリンが受け入れられなかったことになやみ、バイオリンをやめようとして思っけてしまいます。しかし、「祈りの花」という題名の一枚の楽譜に会い、その曲にひかれていきます。そして、カイトは自分のバイオリンを見つめ直すことになるのです。



モギちいさな焼きもの師

リンダ・スー・パーク著 片岡しのぶ訳
あすなろ書房 2003.11

PV:7000187647 Y パー

「盗みと物乞いはしちやならぬ」。そう言っけていさんに育てられた孤児のモギは、橋の下で暮らしていました。名焼きもの師ミンの見習いとして働くことになったモギは、働いて得た食べ物のおいしさを味わい、正直でまじめな性格で、ミンやおかみさんの信らいを得るようになっていきます。



テオの「ありがとう」ノート

クロディーヌ・ル・グイック=プリエト著
坂田雪子訳 PHP 研究所 2016.3

PV:7200477786 Y プリ

生まれつき体に障害があり、車いすで生活する12歳のテオ。何をするにもだれかにお願いしなければならぬ自分や、その度に「ありがとう」と言わなければならぬことにうんざり。どうすれば人に「ありがとう」と言っけてもらえるかを探し始めたことをきっかけに、テオは人の助けを借りられるように変わっけていきます。



チビ虫マービンは天才画家!

エリース・ブローチ作
ケリー・マーフィー絵 伊藤菜摘子
偕成社 2011.3

PV:7200182392 Y ブロ

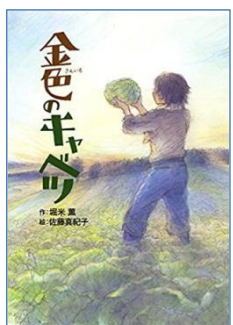
天才的に上手な絵をかく虫の男の子マービンと、さえない人間の男の子ジェームズの二人(?)。ジェームズの両親が、息子に絵の才能があるとかんちがいたことから、二人は絵画どろぼう事件に巻きこまれます。



海底二万海里 上・下

J.ベルヌ作 清水正和訳 A.D.ヌヴィル
画 福音館書店 2005.5 (福音館文庫)
PV:7000305021 / PV:7000289947 Y ベル

人間社会と縁を切り、潜水艦ノーチラス号を操るなぞの男、「ネモ艦長」。潜水艦を巨大なクジラだと思っけてついでに三人の男たちは、海に落ちたところを、ネモ艦長に救われました。ノーチラス号でネモ艦長と進む海底二万海里の旅は、地上の人間が知ることのできない、おどろきとなぞに満ちていました。

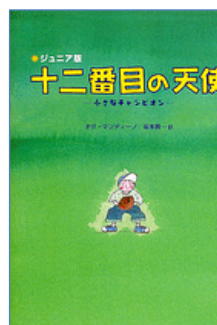


金色のキャベツ

堀米薫作 佐藤真紀子絵
そうえん社 2014.12

PV:7200420150 Y ホリ

テストはよい成績だったのに、ママは「もう少しで全部百点だったのにね」と言っけて。風香は夏休み、両親にないしょでお父さんの弟の仁ちゃんの所へ出かけました。そこは、見わたすかぎりのキャベツ畑。風香はキャベツと生きる人々と出会い、忘れられない経験をします。



十二番目の天使(ジュニア版)

オグ・マンディーノ著 坂本貢一訳
塚本やすし挿画 求竜堂 2002.4

PV:7000068962 Y マン

事故で家族を亡くし毎日なげき悲しんでばかりいたジョンは、少年野球の監督を引き受けることにしました。少年ティモシーは、体が小さく野球の技術も全然だめ。けれども、かれはどんなことがあってもあきらめません。やがて、チーム全体が最後まであきらめないことの大切さを知るのですが…。



海へ出るつもりじゃなかった 上・下
 アーサー・ランサム作 神宮輝夫訳
 岩波書店 2013.5 (岩波少年文庫)
 PV:7200319966 /PV:7200319967 Y ラン

ジョンとスーザン、ティティとロジャの4人きょうだいは、あらしの夜、かれらだけが乗った小さな帆船は、港から流され北海に出でてしまいます。「海には出ない」という母との約束を破ってしまった苦しさと座しよの危険、船よいなど、子供たちはさまざまな困難を乗り越え、あらしの海を進みます。



とぶ船(新版) 上・下
 ヒルダ・ルイス作 石井桃子訳
 岩波書店 2006.1 (岩波少年文庫)
 PV:7000325552/PV:7000325553 Y ルイ

ピーターがうす暗い店て手に入れたのは、両手にのるくらいの小さな船でした。この船は、願ったところに飛んでいくことのできる魔法の船でした。昔のイギリスに時間をさかのぼったり、エジプトに行ってみたり、ピーターとそのきょうだいたちのぼうけんが続きます。



影との戦い(ゲド戦記 1)
 ル=グウィン作 清水真砂子訳
 岩波書店 1976.9
 PV:7000026363 Y ルグ

魔法使いとしての才能を見いだされたハイタカ(ゲド)は、学院で修行をはじめました。かれはその才能を次々に発揮するのですが、とうとう禁止されていた術を使い、「影」を呼び出してしまいます。その結果、「影」におびえながらの孤独な旅に出ることになってしまいます。



ルール!
 シンシア・ロード作 おびかゆうこ訳
 主婦の友社 2008.12
 PV:7200069357 Y ロー

キャサリンの8歳の弟デービッドは自閉症です。そのせいで友達とうまくいかない、キャサリンはいつもイライラしています。そんな時親しくなったジェイソンの前では、無理をしないで自分らしくいられるのです。でも、車いすで話すこともできないジェイソンを、他の友達にしようかできません。



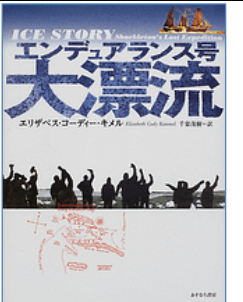
大きな森の小さな家
 (インガルス一家の物語 1)
 ローラ・インガルス・ワイルダー作 恩地三保子訳 ガース・ウィリアムズ画
 福音館書店 2002.6 (福音館文庫)
 PV:7000077937 Y ワイ

大きな森に住むインガルス一家の物語。幼い少女ローラが、お父さんのメープルシロップ作りを手伝ったり、家族みんなで力を合わせて生活していく様子が力強くあたたかく、引きこまれます。



月のえくぼ(クレーター)を見た男
 麻田剛立 鹿毛敏夫著 関屋敏隆画
 くもん出版 2008.4
 PV:7200037551 P アサ

日本の近代天文学のきそをつくった麻田剛立。かれは望遠鏡で月のクレーターを見て、日本で最初の月面観測図を作りました。剛立は友達と遊ぶより、空を見上げて観測を続けるのが好きな子供でしたが、お大きくなっても空への興味はつきません。それどころかますます広がっていくのでした。



エンデュランス号大漂流
 エリザベス・コーディー・キメル著 千葉茂樹訳 あすなろ書房 2000.10
 PV:6000296701 297

この本は、南極大陸横断にいどんだシャクルトン隊長とエンデュランス号の27人の乗組員たちの漂流の記録です。かれらが冒険の希望に燃えて出航してからほぼ2年の間、南極の海はかれらを苦しめ続けました。それでも、この航海は今も「偉大な失敗」と呼ばれています。それはなぜでしょうか。



未来のクルマができるまで
 岩貞るみこ作
 講談社 2016.6
 PV:7200492342 54

2014年12月、世界初の燃料電池で走る車、「ミライ」が発表されました。水素と酸素を化学反応させ電気をつくるのです。本格的なプロジェクトは1999年に開始されました。開発にはたくさんの失敗や苦労がありましたが、個性豊かなメンバーが一致団結し、長い年月をかけて取り組んだのです。